

学生のキャリア形成支援活動

●タイプ1：オープンカンパニー

企業・業界に関する情報提供・PR
学部生・大学院生(学年を問わず)が対象

企業・業界・仕事を具体的に知る

●就業体験 / なし ●所要日数 / 単日

企業の目的

企業・業界・仕事への理解促進

●タイプ2：キャリア教育

(ブレ・インターンシップを含む)
学部生(特に低学年)が対象

働くことへの理解を深めるための教育

●就業体験 / 任意
●所要日数 / 任意プログラムによる

企業の目的

企業がCSRとして実施するプログラム

●タイプ3：汎用的能力・専門活用型インターンシップ

学部生(主に高学年)・大学院生が対象

就業体験を通じて、自らの能力を見極める

●就業体験/必須
学生の参加期間の半分を超える日数を職場での就業体験に充てる。
就業体験では、職場の社員が学生を指導し、インターンシップ終了後、学生に対しフィードバックを行う
●所要日数 / 汎用的能力活用型5日以上 専門活用型は長期(2週間以上)

企業の目的

学生の評価材料の取得

●タイプ4：高度専門型インターンシップ

大学院が対象
※試行結果を踏まえ、今後判断
ジョブ型研究インターンシップ(自然科学分野の博士課程学生を対象に文科省・経団連が共同で試行中)
○高度な専門性を重視した修士課程学生向けインターンシップ(仮称)(産学協議会で検討中)

就業体験を通じて、学生は実践力を身につける

●就業体験/必須
ジョブ型研究インターンシップ: 長期(2カ月以上)
○高度な専門性を重視した修士課程学生向けインターンシップ(仮称):検討中

企業の目的

学生の評価材料の取得

企業は必要な情報を開示して募集をおこないます。例えば、就業体験の内容、就業体験を行うにあたって必要な能力など。リアルな就業体験をすることで、学生は適性や能力について知ることができます。

●フィードバックは、指導を担当した社員が、企業の視点から活動状況を評価し、将来の就職活動や学生生活に役立つアドバイスを提供します。

●インターンシップ選考やインターンシップにおける就業体験、活動状況活動状況などの評価が、インターンシップ後の採用活動のデータになります。